

いわかげ

— No. 102 — 2004, 8, 11

広島大学文学研究科考古学研究室・
帝釈峡遺跡群発掘調査室



帝釈峡遺跡群発掘調査 1 期（8 月

3 日～ 10 日）の調査成果

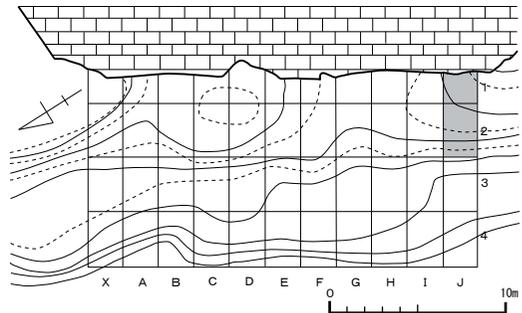
久代東山遺跡

本遺跡は、広島県比婆郡東城町久代字東山に所在し、野部川が東から南に向けて大きく蛇行するところに位置しています。西側に向けて張り出す長さ 30 m、高さ 7

m の石灰岩壁があり、岩壁下半部に岩陰が形成されています。その前面には東西に幅 5 m のテラスが広がっており、遺跡として利用されていたと考えられています。遺跡の利用時期は、縄文時代早期後半（約 7500 年前頃）以降から歴史時代までとみられ、遺構としては縄文時代前期から河原石を用いた立石・敷石・石列・礫群が、また後期からは柱穴や灰・焼土といった住居跡と思われる遺構が出土しています。特に河原石を中心とした遺構は洞窟・岩陰遺跡としては全国的に少なく貴重な遺跡と言えます。また本遺跡の上流には哲西町狼穴洞窟遺跡、下流には久代横呂山岩陰遺跡などがあり、この野部川流域は帝釈峡遺跡群の中でも遺跡が多く見つかっている地域の一つです。

本年度で第 22 次となる当遺跡の調査は、遺跡の南限を確認することを目標としています。J-1・2 区の調査を行い縄文時代の人々の生活範囲がどこまで広がっていたのかを確認します。昨年度の調査では、J-1 区は第 1 層まで、J-2 区は縄文時代後・晩期と思われる第 3 層途中まで掘り下げました。J 区は H 区と比べても遺物が非常に少なく、遺構も見つかっていません。今年度の調査の計画は J-2 区を自然堆積の砂礫層まで掘り下げていき、土層の堆積状態を確認した後、J-1 区とつなげて、J 区を完全に掘っていきます。J 区に人々の生活の後を示す目立った遺物が出土しなければ、今年度をもって本遺跡の調査を終了します。

今期のはじめは天気恵まれず、また H 区の崩落土が考えていたより多く思ったように作業が進みませんでした。その H 区崩落土からは縄文土器片や石鏃、貝類が出土しま



久代東山岩陰遺跡の調査区の配置
(網掛け部が今年度の調査区)



東山遺跡での調査風景



休憩中の東山遺跡調査班

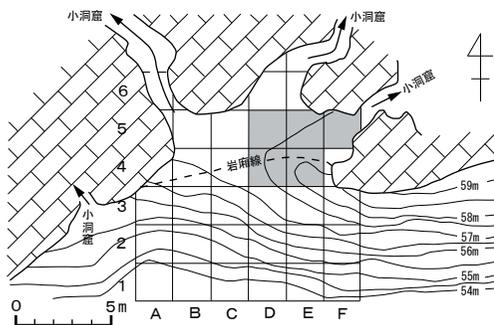
したが、これまでのところ目的とするJ-2区からの遺物の出土はありませんでした。現在、縄文時代後期の第3層を発掘中ですが、この状況はJ区が遺跡の南限であることを示していると考えられます。もちろん縄文時代早期の層である第6層まで掘り下げて遺物などの広がりやの有無を確かめてから、判断していなければなりません。

2期（8月17日～26日）も引き続き本遺跡の調査を行っていきます。雨による作業の中止や多量の礫の除去などにより、今後も調査が難行することが予想されますが、今年度中に本遺跡の調査を終え、その成果を地域の皆さまに御報告できるよう頑張っていきたいと思っております。
（荒平悠・岩崎佳奈・竹村崇）

帝釈大風呂洞窟遺跡

帝釈大風呂洞窟遺跡は神石町永野字大風呂に位置し、1984年に発見され、1996年から毎年調査がされています。洞窟は南に向かって開口していて、幅が約11m、高さ約3～3.5m、奥行きが約4mとなっています。少し狭いですが奥に続く穴もあって人も入れるようになっています。昨年までの調査から、洞窟が使用された時期は、古代・中世（約400～1300年前）と縄文時代の後期（約3000～4000年前）・前期（約5000～6000年前）・早期（約7000～10000年前）と考えられます。中世・古代の遺物は土鍋や皿、火打金や宋銭などが出土しています。縄文時代のものは、土器や、矢の先端につける石のやり（石鏃）、魚を採る網につけるおもり（石錘）、貝製の腕輪、貝類・動物骨が出土しています。また、縄文時代の下帝釈地域の中核をなす観音堂遺跡の直上約40mにあります。両遺跡は距離も近く、利用された時期も重なる部分もあります。さらにこの大風呂洞窟遺跡は高い位置にあり、比較的浅い層から縄文時代の土器などが出土しているのでより古い旧石器時代の生活場所が見つかるかもしれません。そして両遺跡の関連が明らかになれば、この遺跡の起源が現在考えられているよりも古い時期に遡る可能性が一層強くなります。

現在、私達が掘っている地層は中世の層です。今年はず、この層全体を確認して、中世の生活空間を把握しようと考えています。第2層の下、第3層になると縄文時代後



帝釈大風呂洞窟遺跡の調査区の配置

(網掛け部が今年度の調査区)



大風呂遺跡での調査風景

期・晩期の層となります。縄文時代の遺物が数多く出てくることが考えられますので、縄文時代後期・晩期における当遺跡の洞窟利用の様子を明らかにするのが今年度の調査の最終的な目標です。今のところ悪天候の影響もあり、調査は予定通り進んでいませんが、中世の生活の跡と思われる遺構も見つかりました。その場所は、昨年度の調査では生活の場所ではないと考えていたのですが、今回の発見により、生活をしていた可能性が出てきました。このように少しずつ生活の実態が解明されつつありますので今後の調査に期待をもちます。次回、2期の調査で、これらのことをより明らかにしていきたいと思えます。

(大藪幸輝・下元優・谷岡能史・八重樫慎之介)

コラム1

「帝釈弁当」

「帝釈弁当」とは我々学生が発掘に際し持って行くお昼御飯のことです。毎日食事当番が作ったこの「帝釈弁当」を持って現場に向かいます。メニューは日の丸弁当・玉子焼き・ウインナー・野菜炒め・サラダ・サバ缶、以上！せめてサバ缶2つとまでは言わなくても、梅干は2つ入れてほしいものです。そして、メニューは決まっても作る人によって味は千差万別、毎日今日はどんな味だろう、期待半分、不安半分で口に運びます。作ってもらったものは絶対残さないのが調査室のルール、さて今日はどんな味の「帝釈弁当」でしょうか。

(竹村崇)



コラム2

8月9日、近隣の豊松小学校の子ども達と先生と父兄の方々が大風呂遺跡

大風呂洞窟遺跡を見学中の豊松小学校の皆さん

の作業現場を見に来てくれました。実際に遺跡の中にも入ってみて、とても驚いているようでした。子ども達からいくつも質問が出て、私達にとってとても有意義な時間を過ごすことができました。またいつでも遊びに来てください。もしかしたら、この子ども達の中から将来の考古学者が出てくるかもしれませんね。

(八重樫慎之介)

文・理ジョイントプロジェクトの研究紹介

カワナ遺物は人類を救うか

今年の7月は日本各地で記録的な猛暑。また、台風10・11号は異例の進路で中国四国地方を横断しました。皆さんも、「最近、なんだか地球の気候は変だ」と感じられていると思います。

皆さんの印象は、明確なデータとして示されています。1920年頃から、地球の気温は平均すると0.7℃上昇しているのです。「なんだ、たった0.7℃か」と感じるかもしれませんが、この地球温暖化は過去1万年間にあった気候の変化としては最も急激なものです。さらに、気温上昇とは別の変化も起こります。「デイ・アフター・トゥモロー」という最新映画では、ニューヨークに大洪水が襲い、東京では巨大なひょうが降る光景が描かれています。この様な誇張的な大激変が今すぐ起こるとは考えにくいのですが、熱波・洪水・干ばつは、今より頻発する恐れがあるのです。

「10～100年の長期的な気候変動予測を行い、人類に対する悪影響を回避する」というテーマは重要になりつつあります。しかし、週間天気予報ですらあたらない現在の科学のレベルでは、信頼度の高い気候変動予測は不可能だ、と言わざるをえません。将来の予測には過去のデータが必要です。現在、決定的に不足しているのは「過去の気候」に関するデータであり、世界中の科学者が力を合わせて、データの採集に努めているところです。

私は、昨年夏の帝釈峽遺跡発掘調査に参加して、古瀬先生・竹広先生から、長年にわたる発掘の成果の一端を教えてくださいました。その中で、観音堂遺跡のカワナに関する話に強い興味を抱き、今年度も共同研究をさせていただいています。「カワナが過去の温度計になるのではないか」というアイデアが浮かんだからです。カワナは帝釈台一帯に分布する石灰岩と化学的に同じ組成

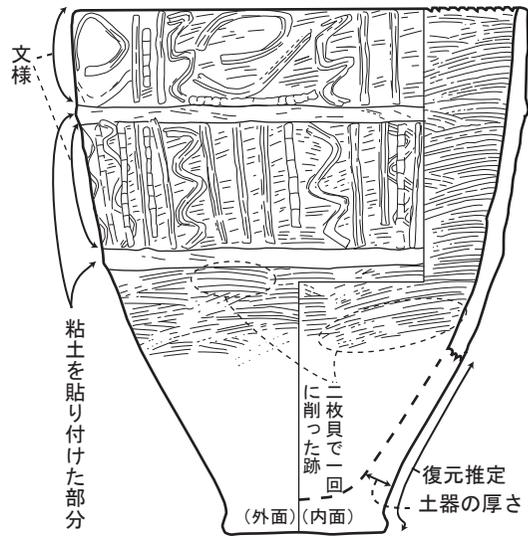


講演中の狩野先生（左）と質問する竹広先生（右）
（宿舎にて）

(炭酸カルシウム)です。いわば、石灰岩が水に溶けて、その中からカワニナの殻ができる訳ですが、殻ができた時の水温が、カワニナに微量に含まれる成分の量として記録されるのです。この研究が成功すれば、観音堂遺跡から得られたカワニナ遺物から、過去一万年の気温変化を導くことが可能です。カワニナ遺物の研究結果が、すぐさま気候変動予測につながるとは言えませんが、世界中で得られたデータと合わせれば、「人類を救う」ことにつながるかもしれません。

(広島大学理学研

究科地球惑星システム学科 狩野彰宏)



帝釈観音堂洞窟遺跡出土の繊維土器

帝釈遺跡群の遺物あれこれ1

神石町帝釈観音堂洞窟遺跡出土繊維土器 (右上図)

1966年頃の調査で出土した、復元高約50cmの土器です。この土器は「繊維土器」と呼ばれる土器で、縄文時代早期の終わり頃(今から7500年前頃)に使用されていたものです。名前の由来は、土器を作る際、粘土に多くの繊維を混ぜている点からきました。これは、土器の中に炭になった繊維や、繊維が燃えてできた孔があることから、意図的に土器に多量の繊維を混ぜていたことが分かります。これらの繊維は土器の強度を増すために混ぜられたと考えられます。この「繊維土器」以外では、多量の繊維を粘土に混ぜる例はあまり見られません。

土器の胴部の表面には、横方向に粘土を貼り付けたり、土器の表面を竹管状の道具で削って凹ませた曲線を作りだしています。また、これは関東地方の土器に類似した点であり、関東地方から中国地方まで土器の情報が人を介して伝わっていたことが考えられます。(加藤徹)

人物往来

広島大学文学研究科学部生 永田千織さん・須崎瀬里奈さん(4年生)(8月3日～11日)

広島大学理学研究科 狩野彰宏先生(8月4日～6日)

〃 大学院生 河合達也さん(D1生)、堀真子さん(M1生)(8月4日～6日)

東条町教育委員会生涯学習科 落合健持さん・仲田順一さん・柳生里枝さん(8月5日)

京都大学人間・環境学研究科大学院生 石丸恵利子さん(D3生)(8月7日～11日)

岡山大学 松木武彦先生・松本直子先生・学生の皆さん4名(8月7日)

広島大学文学研究科大学院生 樋口英之さん・吉川裕行さん・脇山佳奈さん(M2生)(8

月7日)

豊松村豊松小学校 廣田裕作校長先生・今岡信美先生・アウトドアクラブの皆さん6名

(8月9日)

広島大学文学研究科学部生 菅野裕之さん・順田洋一さん・今井千佳子さん・松窪さとみさん・藤原範子さん(学部4年生)(8月9日)

広島県立歴史博物館 鈴木康之さん(8月10日)

参加者名簿(1期8月3日～11日)

広島大学大学院文学研究科 教授 古瀬清秀

〃 助教授 竹広文明

〃 助教授 野島永

〃 大学院生 加藤徹(D1生)、上倉郁子・工藤心平(以上M1生)

広島大学文学部学部生 荒平悠・岩崎佳奈・大藪幸輝・下元優・竹村崇・谷岡能史・八重樫慎之介(以上3年生)、新秀文・伊藤裕介・斉藤礼・山手貴生(以上2年生)

陣中見舞いのお礼

神石町教育長 竹川導人さん スイカ

東城町教育委員会 落合さん・仲田さん・柳生さん ジュース2ダース

弥生食堂藤井さん 野菜

明賀勅枝さん 野菜

県立歴史博物館 鈴木さん ビール券

広島大学 狩野先生 ビール1箱

岡山大学 松木先生・松本先生・学生の皆さん ジュース・お菓子

京都大学 石丸さん お菓子

広島大学 樋口さん・吉川さん・樋口さん ジュース

広島大学 今井さん・順田さん・菅野さん・藤原さん・松窪さん スイカ・お酒・お菓子・お米

ありがとうございます。

本年度は8月3日～10日、19日～25日、27日～9月3日までの3期間、東山・大風呂の両遺跡で発掘調査を行う予定です。お気軽に遺跡まで見学に来てください。遺跡の見学には、山登りおよび川を渡れる服装でおこし下さい。

